

今号のわだい

- 【1面】17労働学校・第40回女性集会
 【2面】各分科会インタビュー
 医療研究全国集会in北海道
 【3面】厚労省交渉

全厚労ニュース

全国労働組合連合会
 厚生連

〒110- 東京都台東区入谷
 0013 1-9-5
 TEL 03-3874-3591
 FAX 03-3874-3593
 発行日 毎月20日 定価 30円
<http://www.zenkouro.org/>

ともに学び広めよう

17労働学校・第40回女性集会in神戸

6月23・24日、全厚労は神戸市・チサンホテル神戸にて、2017労働学校・第40回女性集会を16県141名の参加で合同開催しました。労働学校・女性集会そろっての全体会では弁護士金杉美和さんによる「私たちのくらしを支える憲法」改憲問題を考える」と題した教育講演。「健康で美しくいきいきと働きつづけるために」をスローガンに開催してきた女性集会と、働き方・たたかい方を学ぶ労働学校のコラボレーションは、互いに切磋琢磨し大成功を収めました。

新ガイドライン活かし職場改善へ

開会挨拶にたった畑中剛 罪（共謀罪）について、喜中央執行委員長は、先日 の間に強行採決された安保強行採決されたテロ等準備 法制、秘密保護法とともに

憲法知って言いたいことが言える社会に

使でしっかり協議し、一つでも取り入れ職場の環境改善

講師の金杉美和さんは、大学時代は航空部でグライダーに打ち込み、政治や法律には無関心だったそうです。26歳のときに一念発起し司法試験を受け、伊藤塾・伊藤真先生のもとで憲法を教わる中で自分が政治を動かす上でとても都合の良い、つまり「何も知らない・関心をもたない」国民だったことに気づき、そこから自分だから出来る憲法の講演をしていると話されました。2012年に発表された自民党改憲草案の内容に「これはひどい」と立ち上がった「あしたの自由をまもる若手の弁護士の会（あすわか）」で作成した紙しばい「憲法ってなに？」を披露。



労働学校・女性集会で活力ある集会に

いま変えられようと



趣味がグライダー、空飛ぶ弁護士、金杉美和さん



女性パワーあふれる報告に思わず会場も笑顔

かし、最近の強行採決や審議前にオバマさんに「9月までには安民法制を通します」と言った安部首相を見てみると「そうじゃないのかな？」と疑ってしまうと苦笑い。自民党改憲草案と今の憲法の違い・危険性について指摘し、国民が守らせる側だった憲法が、改憲草案では国民が守るもの変わってしまったこと、「緊急事態条

得た知識ひろげよう

教育講演後は労働学校と女性集会の4分科会に分かれて進行了ました。2日目最後には、まとめ集会を合同で行い、各分科会から出された多彩な報告で例年以

上実りある集会となりました。厳しい情勢のなかにもありますが、これからも運動を続けていきたいと思ひます。

同交で経営者と対等に

各県協力し白熱したシミュレーション

労働学校2日目は岩本一宏中央執行委員長による「労組役員の役割と労使交渉のテクニク」。団体交渉に臨む心構えや、交渉を優位に進めるためのテクニクを学びました。



第5班は要求書を作成して交渉

講義の中で「労働基準法を守らせ、夜勤協定を

向いているけれど、要求で団結していきましようと呼びかけました。



「番多くの利益を勝ちとった第7班」

また、団体交渉を徳島県伝統の阿波おどりに例え、みんなで一緒に踊る（たたかう）ためには、まず仲間（執行部）に入ること。そしてしっかり練習（学習）することで同じ踊りが踊れる（みんなであたかえる）ようになる。労使は対等では無いけれど、対等に近づくことはできる。それが「団体交渉」。普段は様々な方を

講義後、経営者役と組合役に分かれ、模擬団交を行いました。組合側は経営者側の持つ袋に入った給（利益）を団体交渉で勝ち取ります。違う県の人と団体交渉に臨むため、各県の様子や迫力などを知らることができ、より深く学習と交流を行うことができました。

参加者インタビュー

労働学校では3本の講義と団交シミュレーションを行い、女性集会では4つの分科会に分かれ議論を深めました。それぞれの様子を、参加者を代表して5名にインタビューしました。

労働学校

学びを力に



香厚労 黒澤 太郎さん
(理学療法士)

しかけど、来る前より、明らかに少しですが知識はついたと感じたので、意義のある集会だったと思います。

第2生休・母性

仲間に伝えることを意識して

静厚労 森川 未希さん
(写真右下・理学療法士)



ベースアップなどを模擬団交で突き詰めて要求しようとしたが、病院側の経営状況に照らし合わせ要求しようとする、要求を考える段階で難しいなと感じました。組合側がいい加減にベースアップを求めている、会側にかわされてしまうので、組合側は知識を付けて、「それでも私たちの要求はこうだ」と言っていけるようにしなければいけないと感じました。

今回の労働学校で思ったことは、まだまだ私たちの県はおとなしいと感じました。必要な知識を学び、そればかりではなく、現場の状況を相手の話の腰を折るくらいに感じて伝えていいのかなと感じました。1泊2日で

に記入しKJ法でまとめました。集まった情報から「認知度」「身体的要素」「環境的要素」の3つにグループ化し、「起こる問題」から解決策を考えました。

分科会を通じて、静岡は生理休暇・母性保護の活動がそんなに無い県だと思うので、まずは学習をして知識をみんなに伝えていくことがとても大切だと思いました。1人では難しいと思います。なので、他の支部の人や、同じ病院で働く人と呼びかけて、そこから上司や経営者に訴えていくことが大事だと思いました。

第2妊娠・出産・子育て

組合で声かけ権利広める



香厚労 佐野 寛さん
(看護師)

女性集会に参加させてもらったのは3回目でした。生理休暇の分科会にも出たことがあります。復習も含めていい勉強になったと思います。講義の後に生休を取れている病院と、とれていない病院でグループを作りました。私のグループは生理休暇についての特徴や問題点を、それぞれカード

初めての参加で、ふたを開けてみれば男性一人：「やってしもた」と思ったが、実際参加してたことになるが多かった。自分の県連では女性委員会の認知度が低く、未だ権利を知らない人が多い。男性の育児休暇は声を掛けても誰も取ってくれないというのがありますが、女性自身が権利を知らないということも問題。「こ

ういう権利があるよ」と

まず勧めて、なにかおかしいことがあったときに相談できる窓口として組合があれば、皆も働きやすい職場になるのかなと思う。グループで他の県の人と話してみても

保障されている権利でも現実はどうもいかない所があった。(夜勤免除・時間短縮など)カバーしようという風土はだいぶ出来てきているので、あとは本人が申告しやすい空気、上司の質など…。上司によっては理解を示してくれる人もいれば、そうでもない人もいるので、やはり組合から働きかけなければいけないと思う。

第3更年期

学び・発信・要求づくり



福厚労 斎藤 文子さん
(看護師)

更年期分科会では3つのグループに分かれ話し

しました。まずは、更年期からくるストレスや突然のホットフラッシュ、生理不順、仕事したくない、家事もしたくない等多種多様な症状について知ることが大切との意見が多く出ました。次に更

「貧困・格差」なくすため、声を上げよう!

医療研究全国集会in北海道

6月29～30日、北海道札幌市の「かでる2・7」ホールにて、第44回医療研究全国集会(同組織委員会主催)が行われ、全国から700名を超える医療・福祉従事者が集まりました。



藤田孝典さんの記念講演

「格差と貧困」～医療と介護の「脱商品化」戦略～と題して、NPO法人ほっとプラス代表理事の藤田孝典さんが記念講演。藤田さんは、約20万部を売り上げた「下流老人」の著者で、老人の貧困問題とともに、下流老人を生み出す「下流老人予備軍(中年)」と、貧困世代(若者)の実態について具体的事例を挙げて話されました。そして「社会的弱者」は「声を上げにくい」ので、医療労働者ら問題を知る人たちが率先して「声を上げていく」、ソーシャルアクションを起こしていくことが大事だと話されました。

その他、北海道大学名誉教授の上野武治氏が「看護・福祉領域のメンタルヘルス」について特別報告。医療・福祉分野の「精神疾患労災認定件数割合」が、全体と比べて低いことなど、医療現場での労基法、労安法、労契法などへの無理解や「前近代性」を指摘されました。

初日夕方には、サウンド・デモが行われ、オープニングにも出演した、バンド「イリヨウケンズ」(組合役員らで構成)や青年たちが大活躍しました。

2日目は主に職種別の18分科会に分かれて、日頃の実践について交流しました。

くではいけません。若い方々も何れは通る道。皆で更年期を理解し、話し合い、共感・協力して長く働き続けることが出来る職場環境をつくらう!

第4介護

ケアの向上に繋がった



岐厚労 富田 里美さん
(写真真ん中・看護師)

更年期には夜勤や2交代等の長時間夜勤が厳しくなります。組合の運動

として、増員した上で更年期の方に一定の夜勤免除や、年に一度はちゃんとドックに入ることが出来るようになど、要求を作っていくことも考えな

初めての参加です。これまで法律は身近でなかったけれど、記念講演の弁護士さんの話を聞いて、生活と関わりが深いし、自分を守るためにも大切なのが分かりました。また分科会では、ミニ学習やグループ交流の中で、今までの看護を見返すことが出来ました。

初めての参加です。これまで法律は身近でなかったけれど、記念講演の弁護士さんの話を聞いて、生活と関わりが深いし、自分を守るためにも大切なのが分かりました。また分科会では、ミニ学習やグループ交流の中で、今までの看護を見返すことが出来ました。

「介護休暇」という言葉は知っていましたが、93日の介護休暇を分割で3回取れることも初めて知ったし、93日では足りない、もっと介護のためのサポート体制が必要だと思いました。また認知症の学習では、これまで患者さんに対して、「静かにして」という対応し

県では2ヶ月に1回集まって地元の情報は入りますが、全国の状況や他の病院のやり方を学ぶ機会はないので、集会は続けて欲しいと思います。

県では2ヶ月に1回集まって地元の情報は入りますが、全国の状況や他の病院のやり方を学ぶ機会はないので、集会は続けて欲しいと思います。

法規制・診療報酬改善で地域医療守れ

介護を支える 大胆な施策へ転換を

だから宿題やるの、ずーっと先送りする

“ほめると伸ばす。”
タイプ、だった

地域実情にあった 地域医療構想へ

**実際の改善につながる
法規制や診療報酬を**

交渉団は、「通知や医療法改正されたことは良いが実際の現場ではなかなか有利に働いていない。努力義務ではなく、使用者に対し

労働条件改善に誘導する
診療報酬改定を

からの意見を頂いているが、しっかりと議論する必要がある」「勤務環境の改善問題は、今後とも負担軽減を中軸にして、様々な意見を中軸協で受け止めて対応していきたい」と答えました。

**職員の健康を維持する
ための診療報酬改善を**

きやすくなると思う。今の加算は、資料や報告書、マニユアル準備と看護業務以外の土曜が中心。スタッフ

病院薬剤師は 業務負担増大

理屈はつくと思う。積算根拠になると思うので、是非検討して欲しい」と要望しました。

厚労省は薬剤師対策について、「総務課が担当」として回答。実態調査は、平成26年度から都道府県が把握できるように様式変更し対策を取ってもらうようにしていることその他、加算新設の話等をされました。

奨学金返済への助成については、「国で他に例がなく
難しい。人材確保の方策を

進めたい」としました。実態調査上は、病院薬剤師も薬局に勤める薬剤師も増加傾向にあります。が、交渉団から実態を出していく中で「配置力所や業務が増えていくこと」も不足の一因という認識を示しました。

最後に厚生連が担っている
過疎地域や中山間地の医療
提供には国や自治体等の支
援なくしては継続できない
ことを改めて強調して、春
の厚労省交渉を終えました

泥臭くても格好悪くても
現場の実態、伝えることが大事



A black and white portrait of Dr. Yoko Kikuchi, a woman with short dark hair, wearing a dark top and a light-colored jacket. She is looking directly at the camera with a slight smile.



厚労省交渉は初めてだったので雰囲気も分からなく、交渉中に人が出たり入ったりするものだとは知らなかったので驚きました。厚労省の人と直接話しが出来たのはとても貴重な体験でした。前日に看護委員会で見学必要度のことなど話していたので、現場での思いを伝えられてよかったと思います。厚労省は医療現場のことは数値や統計など、たくさんのデータで知っていると思うが、それでも「実際の現場はこうなんだよ」というのを伝えることが重要なのかなと思います。自分の県の団交でも感じるのですが、泥くさくて一見格好悪くても、そうしていくことで現状が相手に伝わると思う。病院薬剤師が足りないという問題でも、厚労省の人は数字を見て「増えてます」と言うけれど、実際の現場では増えているという実感はありません。それは何故なのか、今度の課題でもあると思います。

頑張る仲間 各県この人

各県・現場で運動に、趣味に、仕事に頑張る人々を紹介するコーナーです。
第122回は静岡と大分をお願いします。



静岡 土屋幸人さん

静岡労副執行委員長の土屋です。生まれも育ちも静岡県で、県内の厚生連看護専門学校を卒業後、リハビリテーション中伊豆温泉病院に看護師として就職しました。あれから20年。静岡労看護部長を2年務めたのち、現職を任されています。

看護部長時代には全国の皆さんと共に励まし合いながら看護労働環境の改善、県内の活動では東西に長い静岡県が1つになるよう夜勤協定協議会・ナースウェーブなど積極的に参加し、県内外の仲間

と交流を持ちながら、たくさんの刺激をもらいました。
自分では極度の人見知りと思っていますが、そんなこともないのかな???

看護委員会事務局長の河原雄大さんを紹介しします。ICUで日々、重症患者さんのケアや、救急対応、心カテ業務に尽力されています。DMAT隊員としても活躍しています。一見チャラさが目立ちますが、根は真面目。見た目とは裏腹にお酒は一滴も飲みません。女子の扱いは天下一品で優しさ溢れる対応にみんなメロメロ…。仕事においては、石橋を叩いて渡る性格で、拔かりなく丁寧な看護記録は仲間うちからも一目を置かれています。ここ数年継続して執行部役員も続けており、今後の大厚労の未来も明るいです。集会などで見かけたら気軽に声をかけて下さいね。



大分 河原雄大さん

読者の声

田に水がはり、蛙の音が聞こえてきました。いつまでもこの光景が後世に伝わるよう、平和を維持したいです。

(長野)

ほんとにその通りですね!!どこに行っても安全で安心できる世の中になる事を願います。

(SN)

いつも楽しくクロスワードをやっています。休憩時間のちょっとした話題づくりになっています。

(北海道)

少しでも息抜きの足しになれば幸いです。どんな話題づくりしていいですか。

(IT)

組合の会議や学習会などにも参加してくれるDRがいるなんてビックリです。北厚労ってどんなところなん?と思いました。やはり、うらやましい。

(徳島)

医師も組合活動に参加してくれることは、とても心強いですね。どんな団交を行っているのか、私も興味があります。

(MK)

給与明細の見方読みました。差し引き支給額しか見ていませんでした。賃金を受領したのかチェックしないといけないと思いました。

(長野)

どんなに幾重にもチェックしていても、極々まれにミスがあります。毎月の手取り増減チェックだけじゃそのミスには気が付きません。ちょっと勉強して数字を見ていくと別の風景が見えてくるのでは?と思います。

(YM)

聞かせて・教えて!のコーナー

☆5月号で募集した「聞かせて・教えて」結果発表☆

質問1 5月号で一番興味があった面は?

1面「メーデー」と3面「給与明細の見方①」が共に5票で一番多い回答となりました。

質問2 夏休みに行きたいところは?

「その他」が6票で最多でした。皆さんどこへ行かれるか気になりますね!

先輩に言われて「嬉しかった・励みになった言葉」

- ◎「何でも私に聞いてね。」です。わからない事は先輩に聞いてもらい、何事にもチャレンジしたいと思いました。(徳島・女性)
- ◎「いつも頑張っているね。いなければ困る。」(北海道・女性)
- ◎初めてマンモグラフィーを撮って先輩に画像を確認してもらい、「きれいな写真が撮れたね」と言ってもらえたとき。(北海道・男性)
- ◎「おまえの仕事は素晴らしい。」(岐阜県・男性)

さて、今回の「聞かせて・教えて!」は

質問1 7月号で一番興味があった面は?

A=1面 B=2面 C=3面 D=4面

質問2 アウトドアと言えば?

A=キャンプ B=登山 C=釣り
D=その他(意見・要望欄へ)

意見・要望 私の「○○の秋」、または質問2「その他」の答え

クロスワードの投稿だけでもOK

QRコードが便利です

QRコードを読み取って、投稿サイトにアクセスするか、以下のメールアドレスに空メールを送って下さい。

kikasete@zenkouro.org

質問フォームに、必要事項を記入して送信して下さい。氏名・住所・希望景品(図書カード又はクオカード)は必須事項です。投稿数に応じてポイントが貯まります。投稿締切 投稿・パズルとも8月末まで。

教宣部のつぶやき

暑さと熱さ

この記事を書いている最中でさえる場所にもよりますが日中は30度を超えて、本格的に夏到来の暑さです。この暑さが、日々の仕事や労組の熱さに、変われば素敵なことなのですが、なかなかそう都合よくはいきません。モチベーションを上げていくことは環境にも、気持ちでも大きく左右されますね。この暑さを、日々の活動の熱さに変えていきましょう。

(IT)

【問題】A～Fを並べてできる言葉は?

■ヨコのカギ

- 1 8月11日。祝日です
- 4 掃除道具の一つです
- 7 仁王立ちの金剛……像
- 9 野球用語で「生還」。ホーム……。
- 10 日頃からの管理や事前の回避が大事
- 12 立秋過ぎて続くもの
- 14 一人。……赴任
- 16 ……扉。……水槽。
- 18 リオ五輪での吉田沙保里選手のメダルの色
- 19 景色。……画
- 20 ヘルシーな……性油
- 22 ヤボではありません
- 23 ムーミンに似た動物
- 24 ハト派の反対語
- 26 ……いちえの出会い
- 27 J R東海道線の藤沢と茅ヶ崎の間の駅は?

当選者(読者の声掲載者含む)10名様に図書(クオ)カードを差し上げます

答えと本紙の感想などを添えて下記あて先へお送りください。当選の結果は発送をもって代えさせていただきます。5月号の答えは「ハナシヨウブ」で、当選倍率は2・5倍(クロスワード・聞かせて)でした。



1		2	3	4	5	6
	A					
		7		8		9
10	11		12		13	
14		15			16	17
	E				D	
		18		19		
20			21		B	22
23			24		25	
26				27		

■タテのカギ

- 1 東海中藤栗毛の……
- 2 コンビ
- 3 浅草……。……巻き
- 5 足し算の反対語
- 6 地球は……。……惑星の一つです
- 8 佐渡島といえは……山
- 11 小棒大。……葉樹
- 13 緑日で買った出目金などを入れよう
- 15 燃やすと体重が減る
- 17 濃い紅色のことです
- 19 演歌に歌われる冬景色が有名。津軽……。
- 20 敗者……戦で勝負する
- 21 歯医者さんのことですか
- 23 おだてれば木に登る?旅の……はかき捨て

締め切り:2017年8月末日 消印有効

あて先:〒110-0013 東京都台東区入谷1-9-5-6F 全厚労 ニュース係